

三勲小だより

令和3年3月2日（火）



岡山市教育研究研修センター（教員の研究・研修機関）が教職員向けに発行している「センター便り」の巻頭言に、三勲小学校のことを書きました。

「姿勢ヲ正シテ元氣ニ歩ケ。」

～75年前の学校日誌から～

清 廣 玲 子

岡山市からの依頼を受けて、学校で古い資料を探していた時のことです。校長室で一冊の学校日誌を見つけました。それは今から75年前、昭和20年度の三勲小学校の日誌でした。開いてみると、在籍児童数（現在の約2倍の1200人程度）や学校行事、室内で騒ぐ児童が多いので注意したことなど今と変わらない学校の日常が記載されていました。しかし、あるページから内容が一変し、それまでとはあまりにかけ離れた言葉が目飛び込んできました。

「空襲午前二時ヨリ四時マデ」、「岡山市焼夷弾ニヨリ被害相当アリ」。昭和20年6月29日の岡山空襲の日の記録です。岡山市はその日、B29の焼夷攻撃を受けて、市街地は火の海になり、約2000人の尊い命が奪われました。本校の校舎内外にも多くの被弾がありましたが、教職員と警防団の必死の消火活動によって奇跡的に消失を免れたのです。

学校は臨時休校となり、罹災者の収容所になりました。日誌には「罹災者ノ世話 ○○先生」という仕事の分担や「市本部トノ連絡」などという文字が続いていました。

この日誌を読んで、私は、本校で岡山空襲についての学習を取り入れなくてはならないと強く思うようになりました。子どもたちに自分たちの住む地域や学校にどのような悲惨な歴史があったのかということを知らせ、平和の大切さについて学んでほしいと考えたからです。そして、6年生の総合的な学習の時間に、岡山空襲を体験した地域の方から岡山空襲のお話を聞く会や岡山市主催の戦没者追悼式への参列を行うことを計画しました。お話を聞く会では、地域の方が、次々に降ってくる焼夷弾や迫ってくる炎から逃げ惑ったことなどの悲惨な経験や、二度と戦争をしてはいけないという平和への思いなどを話してくださいました。また、岡山市戦没者追悼式では、代表の子どもがステージで平和宣言を朗読したり、遺族の方に献花の菊を渡す手伝いをさせていただいたりした後、全員が平和への祈りを込めて献花を行いました。子どもの「この学習で学んだことを伝え、平和な世界をつくっていかなくてはいけない。」という感想からは、空襲を体験した方の心の痛みや平和への思いに直接触れたことによって、子どもたちの中に、平和を願い、自ら行動しようという気持ちが育ってきたことが分かり、とてもうれしく思いました。

日誌を読み進めると、9月になって授業が再開されたものの、児童数は半分程度であり、「農耕（五年女、六年男）」などという記載から、学校で子どもたちが交代で農作業を行う日々が続いていたことが分かりました。そんな中、ふと目に留まったのが、11月の「姿勢ヲ正シテ元氣ニ歩ケ。」という週目標です。私にはこの目標が、たいへんな状況だからこそ、子どもたちをたくましく成長させたいという当時の先生たちの強い気持ちの表れのように感じられました。

戦争という混乱を極めたこの時代と現在のコロナ禍を比べることはできませんが、どちらも通常の教育活動ができないたいへんな状況であることに変わりありません。これからも先の見えない日々が続くことでしょう。しかし、まず、私たち教職員が子どもたちに元気な姿を見せましょう。そして子どもにも「姿勢を正して元気に歩け。」と呼びかけましょう。子どもたちの力を信じて温かく支え、力強く励ましてやることで、きっとコロナに負けない元気な学校をつくることができると信じています。

＊今年度、総合的な学習の時間の計画を見直し、平和学習は5年生で行うことになっています。

